

THE RACING PIGEON
2023
APRIL
Vol. 769

レース鳩 4



令和4年度 会長賞全国1位・KBDB会長賞・日本AP賞受賞鳩舎“協会三大AP賞”座談会
第35回 日本優秀鳩舎賞座談会

令和4年度会長賞全国1位・KBDB会長賞・日本AP賞受賞鳩舎 限定提供
協会AP賞誌上オークション“*As d'Or*” part1

特集／八郷・国際ダービー400K&

国際親善鳩レース大会500K ルポ

伊賀・国際ウィナー&連合会対抗300K ルポ

国際親善鳩レース大会400K ルポ



令和4年度 日本エースピジョン賞全国1位

“スピキュール・エース”

21PE02139 BC ♀ 井川義春鳩舎作出 白井俊也鳩舎(愛知静岡・東愛知連合会)使翔

22年春愛知静岡連盟西山Rg 1,738羽中 総合23位(実距離410.519K/分速1158.787m)

愛知静岡連盟羽後本荘地区N887羽中 総合 3位(実距離569.615K/分速1248.654m)

愛知静岡連盟岩内桜花賞 60羽中 総合優勝・中部ブロック連盟三地区180羽中9位・

(実距離958.580K/分速815.385m・2日目)

ベルギー王立愛鳩家協会会長賞愛知静岡連盟1位

紙の鳩

画竜点睛の完勝劇——からの

日本一のレース鳩誕生！

22年度日本エースピジョン賞全国1位 白井俊也鳩舎(東愛知連合会)

日本一のレース鳩の覚醒が導く 競翔家としての極

白井俊也さんは、レース歴15年という短いキャリアでありながら、全国区の強豪鳩舎を多数輩出する愛知静岡連盟において安定した成績を残し、地区N、桜花賞というメインレースを制した実績を誇る。まさに生粋の飛ばし屋だ。とりわけ近年は当人のみならず連盟全体としても記録さえ困難な1000Kを意識。そして22年春、地区N総合3位、GPでは連盟制覇と勢いに乗る白井さんは、その桜花賞で6年ぶりに帰還に成功し、総合優勝を飾る。2位を200メートル近くぶつちぎっての単独飛行、かつ前述の地区N総合3位——KBDB会長賞狙い



東愛知連合会の仲間たちから白井俊也さんへ

日本AP賞全国1位
おめでとう!

■白井行弘氏(連合会長・1番右)「日本AP賞の全国1位はウチの連盟で3羽目(*92年・98年・22年)です。私もベストテンに入ったことがあるのですが、このトりの成績は本当に素晴らしいと思います。正直うらやましいです。また白井さん自身の人柄も素晴らしい、毎週彼のもとに集まっては鳩談義をしていますね。また連盟にも協力的で、まさに縁の下力持ちです。次はGNとおっしゃっていたようですが、開催さえも困難な状況…。彼の夢が実現できるように応援したいと思います。おめでとうございました」

■吉田三男氏(10年総理大臣賞に替わる協会賞全国優勝、ダイヤモンドマーク賞・右から2人目)「白井さんは鳩レースに熱心で周りの意見を聞き、自身でかみ砕きながら、どんどん強くなっていきました。なので、当然に近い成果だと思っています。我々はAPタイトルを意識していますので、白井さんに1000K1本で勝負してみても、といったところ、全国1位鳩に課して地区NからGPまで完全体養させたようです。これが良かったのか、持ち寄り画面は遠征に行くほど状態が上がっていったと聞いています。東愛知連合会で日本一はこれで3回目。私も喜寿を過ぎましたので、白井さんの受賞を刺激にもう一度全国に返り咲けるよう頑張りたいと思います」

左から春日登喜男氏、間宮 清氏、嶋田敏男氏、有田文雄氏。

で投入した「期待の1羽」による勝利であり、画竜点睛とはこのこと！ ゆえにこの完勝劇に白井さんが胸を躍らせたことはいわずもがな——だが、朗報を耳にしたのは病院のベッドの上だった。彼は桜花賞の直前、仕事中に重機の下敷きになってしまい、左足切断という重傷を負って入院していたのである。実のところ参加自体あきらめていたが、白井行弘さんや吉田三男さん(二人とも東愛知)といった週に1回鳩談義で集まる鳩仲間たちのフォローと励ましによって心変わり。喜び以上に気の置けない先輩、鳩友たちへの感謝の気持ちが強い。

総合優勝鳩の作出者・井川義春さん(ニュー愛知)に対しても同じだ。迷い鳩が縁で知り合い、彼のレース環境が厳しいということから選手鳩を預かることに。この「他人の鳩を飛ばす」という初体験が白井さんにとってモチベーションとなったようである。しかも雑種強勢を目的とした「三元交配」という「かつ

の日本一」小林晴夫鳩舎(愛知三州)直伝の技で作出された選手鳩のクオリティは明らかに高かった。6羽中3羽が活躍し、うち総合優勝の「21PE02139」は鳩質が飛び抜けていたのか、難戦となった地区Nをなんと疲労感ゼロで帰還。白井さんを大きく唸らせ、これが「期待の1羽」に昇格したもう一つの理由だった。ともあれこの桜花賞制覇は連盟として24年ぶり、連合会では初となる大賞を呼び込むこととなった。目標としていたKBDB会長賞に加え、なんと日本AP賞で全国1位に選出されたのである。

22年度 日本AP賞全国1位・KBDB会長賞連盟1位・愛知静岡連盟桜花賞総合優勝

“スピキール・エース” 21PE02139 BC ♀ 井川義春鳩舎作出 白井俊也鳩舎使翔全兄弟 / 22年春100K優勝

- “シビル1998” 20SB01998 BCP 桑原次郎作
 - 08PB05710 BC 遠藤 宝作翔 静岡東連盟桜花賞総合9位 孫 / 21年GP連盟優勝
 - 08年東日本CH1100K連盟優勝(“中野400号”、“バズーカ”、“ターレン”の各直系)の直仔
 - “クイン・シビル”17SB06362 B 桑原作翔
 - 三重連盟AP賞1位、銘鳩賞、地区N総合2位、600K総合3位、GP連盟6位
 - 「350×4006」(*ナンパー系)、“絵鳩ペンシル”各近親&“ナショナルI”直系×外川清明鳩舎黄金交配「99XA18606×ハイカラー」(*98年長万部GN総合優勝)の孫
 - “SPM、レジョナルキング、10s” 09PE02273 BC 岡田作翔 10年Rg総合優勝
 - “デン・プールジュ”(プールジュN2位/下記“カニパール”全兄)の孫×00年日本AP賞全国6位の異母妹(*「ホフケンス85×“H.V.R.15”」の孫)
 - “SPM、レジョナルセカンド、14s” 13PE08284 B 岡田作翔 14年Rg総合2位
 - 07JH09217 B 中島伸治作
 - “シャンテリー”異父弟×D&L・ファンダイク作(*“カニパール”の直仔×“ランボー”の娘)
 - 05PE06569 B 岡田作翔 200K優勝 「“ホフケンス85×“H.V.R.15”」の曾孫×孫
- “SPM久美” 17PE04693 BC 岡田辰一作 孫 / 22年秋Rg300K総合優勝 400K2位

愛知静岡連盟は、常に全国を意識してきた団体であり、この「日本一」誕生によって活気がよみがえることは必至。その一方で然るべきトリスはいれば、自身の調次第で頂点に立てることを証明した白井さんにとっての「極み」に「より遠くへ」という競翔家としての「極み」に触れることは夢物語ではないはずだ。この逆境を乗り越え、彼の再起に期待したい。

白井俊也鳩舎(東愛知連合会)